

令和8年度第3回TAMA女性センター市民運営委員会 会議概要

開催日時： 令和8年6月26日(金)10:00～11:30

場 所： TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：【委員長】野寄理佳子委員、岡田貴子委員、櫻田万里委員、藤江美也子委員(委員長以下 50 音順)

欠席委員：【副委員長】島田直広委員、田中伶委員、吉岡希実子委員

TAMA 女性センター(事務局)： 武井係長、小泉主事

傍 聴 者： なし

司 会：【委員長】野寄理佳子委員

< 配付資料 >

当日配付 委員から事前に配布希望があった資料

(東京市町村自治調査会の調査研究報告書及び大阪府吹田市の広報誌)

1. 開会

2. 今年度の事業について (委員発言：● 事務局発言：□)

第3回市民運営委員会では、必要な人に必要な情報を届けるための広報の手法や届けたい情報について検討を行い、以下の内容が事業実施に向けて大切な考え方として共通認識となった。

- 生活するなかで悩み事として認識していない人々が悩みに気づいてもらえるような情報発信が大切
- 悩みがあるときにTAMA女性センターへ相談後の支援の流れを紹介することで、相談に対するハードルが下がることが考えられるため、そのような情報発信をしていきたい
- 参加につなげるために、入り口は料理企画など参加に対するハードルが低いものとし、出口に社会課題などを伝えるというアプローチを行い、必要な人に必要な情報を届けていきたい
- 現状として、男性や若者は市の情報を積極的に収集しにいかない人が多く、そのような人々へのアプローチも行っていきたい

最終的に、参加のハードルを下げるのがまず大切ということで意見がまとまり、料理企画を入り口にした啓発事業を行おうという方向性に固まった(以下、委員の意見抜粋)。

●今後の広報の方向性としては、TAMA女性センターの存在を知ってほしいのか、TAMA女性センターの事業を知ってほしいのか、広報誌(たまの女性)の周知を進めていくのか、色々な方向性があるため、その論点を整理する必要がある。情報発信としては、情報が届いていない層や情報の取得方法を考えることから始めるのが大切であるとする。

●現状として、TAMA女性センターの認知度が低いと感じている。TAMA女性センターについて説明するときに、相談できる場所と伝えと、相談するほどの悩みはないから自分には関係ないと思われてしまう。悩みがない人も来て良い場所と伝えられたら良いと思う。

●何か問題を抱えていても相談するほどではないと思っている人がいる。悩みがなくても来てても良いというのは大切であり、モヤモヤした気持ちを相談できる場所として、TAMA女性センターが役割を担うべきである。自分自身の悩みやモヤモヤした気持ちに気づいてもらうという視点は、今後の方向性として大切になってくると思う。

●子どもがいたり、介護をしていたり、目の前に取り組まなければならないことがあると、興味深い事業を見つけても、目の前の物事に気が向かってしまい、事業への参加が難しい人もいる。映像など誰でもアーカイブで見られるようにするなど、これまでと届け方を変えていく必要があると思う。また、悩みがあっても、以前乗り越えられたから大丈夫と言い聞かせ、モヤモヤした気持ちに鈍くなってしまう人もいると感じており、悩みに気づかせるというのは大切な視点である。

●アーカイブについて、イベント開催後に存在を知り、興味を持った人のために、記録として残すのは良い方法だと思う。生で参加した人と温度感が変わるだろうが、方法のひとつとして検討していきたい。事務局としてアーカイブについて情報があれば教えてほしい。

□アーカイブがあることで、選択肢が広まるのは良いことだと思う。ただし、これまでの経験から講演会などは映像として残すことに向いているが、少人数の体験型の事業は映像として残すことはあまり向いていないと感じている。報告書のようにまとめたものをホームページやたまの女性に掲載することはできるので、方法は検討いただきたい。

●悩みに気づかせる方法として、例えばDVチェックリストのように列挙していくというのが効果的だと思う。自分はあてはまっているのだと気づき、相談など行動につなげることができるだろう。その際、TAMA女性センターに相談した後の流れを紹介することで、恐怖心や不安な気持ちから相談できない人も安心して相談できるようになるのではないかな。

●TAMA女性センターでの相談について、面接や電話のハードルが高いのであれば、東京都などのオンライン相談につなげるのも方法のひとつだと思う。また、中高生がDVチェックリストの存在を知り、知識として持ちながら大人になれば、そういえば昔これはDVだと聞いたことがあったと気づくことでSOSをあげやすい社会になると思う。

●情報を届けるための事業について、料理企画だと人が集まると聞いたことがある。例えば親子クッキングであれば、普段料理をしない方のパパもしくはママとその子どもに参加してもらうことで、参加者は普段料理をしてくれているパートナーの気持ちに気づく場となり、子は思い出をつくる場となる。気軽に参加できる事業で問題に気づかせるというのは良い方法だと思う。

●事業実施にあたり、料理など身近なものを入り口とするのは良いと思う。内容は今後検討するが、男女平等やハラスメントといった問題に気づかせるような流れはつくることができると思うので、身近なところを入り口とした事業を検討するのが良いのではないかな。

●どのように情報を届けていくかについて、自分自身、地域の掲示板や広報誌を自分が親になるまで読んだことがなかった。若い世代は、市の取り組みに関する情報を取りにいかないのではないかな。また、男性も情報を取りにいかない人がいると感じており。そのような市の取り組みに関する情報を取りにいかない人々にどのように届けていくかも検討していきたい。

●若い世代は地域に縛られていないように感じている。そのため、在住の市民だけではなく、市内の大学や高校に通学している人々に情報を届けていくのも大切になると思う。

3. 次回以降の活動日程

第4回は8月14日(金)10時からということを確認した。第5回以降は欠席委員の意向を踏まえるため、後日決定することになった。

4. その他

今回は、今年度の事業についてより具体的に検討するために、それぞれ料理を入り口とした企画の内容を検討し、発表できるように準備することとなった。

5. 閉会